

筑波大学スポーツのリソースを活用した社会課題解決事業

マルチスポーツコンベンション及びマルチスポーツ体験フェアの実施報告

現在、少子化によるスポーツ活動人口の減少や、教員の長時間労働といった課題を背景に、我が国におけるジュニア期のスポーツ活動を支えていた「部活動」が大きな転換点を迎えています。

筑波大学体育スポーツ局では、この機会を、日本に未だ存在している「質の伴わない長時間練習」「主体性を無視した指導」「選択肢を与えない早期専門化」といった、改善すべきスポーツ文化を見直す絶好のチャンスであると捉え、海外スポーツ政策や健全なスポーツ活動に関する研究及び情報発信をして参りました（配布資料参照）。

この度、海外諸国では当たり前のように行われている、「マルチスポーツ」をテーマにしたコンベンション及び、それを地域の人々に体験してもらう「マルチスポーツ体験フェア」を開催しました。年間を通した単一種目の実施が一般的な我が国において、1年をシーズンに分け複数種目を行うことを促す価値観やそれを実現するためのシステムは、新しいスポーツ観の導入に繋がると考えたからです。例えば、「マルチスポーツ」を実現するためには、1種目あたりの活動量を短縮しなければなりません。また、競技間での選手の奪い合いを辞め、特定の種目ではなく「スポーツ全体を好きになってもらう」という共通理念を浸透させていく必要があります。

本学では、このような共通理念こそより豊かなスポーツ環境の構築には不可欠であると考えており、今後とも筑波大学スポーツのリソースを活用しながら、そのモデルとなるスポーツ活動を生み出し、発信していきたいと思っております。

【次回開催予定のマルチスポーツイベント】

時期 : 2025年2月頃（予定）

対象 : 子どもから大人まで

開催場所 : 筑波大学サッカー場

競技数 : 10種目以上

詳細については、2024年12月あるいは、2025年1月の定例記者会見でご報告いたします。

※本事業は、スポーツ庁委託事業「令和6年度 地域における子供たちの多様なスポーツ機会創出支援事業」によるものです。

※取材をご希望の方は事前に「bpes_admi_koho@un.tsukuba.ac.jp」までご連絡ください。

【11月7日（木）開催】

マルチスポーツコンベンションー日本のスポーツ改革が「いま、始まる」

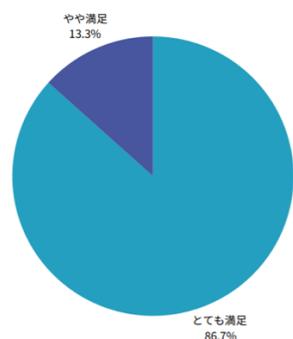
来場者数：136名

開催場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎

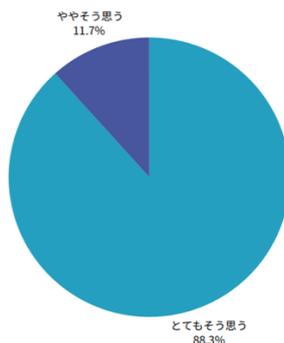
登壇者：室伏 広治（スポーツ庁長官）、Andy Rogers（Sport New Zealand）、Steven Rynne（クイーンズランド大学）、谷口 輝世子（スポーツジャーナリスト）、Lander Hernández Simal（デウスト大学、スポーツコンサルタント）、小澤 一郎（サッカージャーナリスト）、大山 高（筑波大学教授）



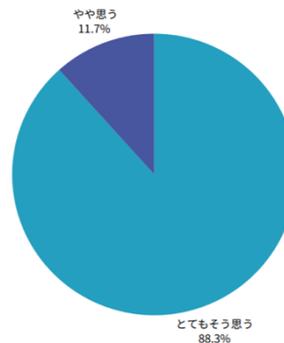
コンベンションの満足度



海外諸国がマルチスポーツを推奨する目的や意義に対する理解度



日本においてマルチスポーツ環境を推奨したいか



【11月9日（土）開催】

マルチスポーツ体験フェアーBALANCE IS BETTER 新しい自分にチャレンジ！

種目数：9種目

参加者数：353名（対象：園児～中学3年生）

対談企画：「マルチスポーツって何？世界が注目する複数種目をするものの効果」

登壇者：村尾 三四郎（パリ五輪柔道銀メダリスト）、小澤 一郎（スポーツジャーナリスト）、大山 高（筑波大学教授）

